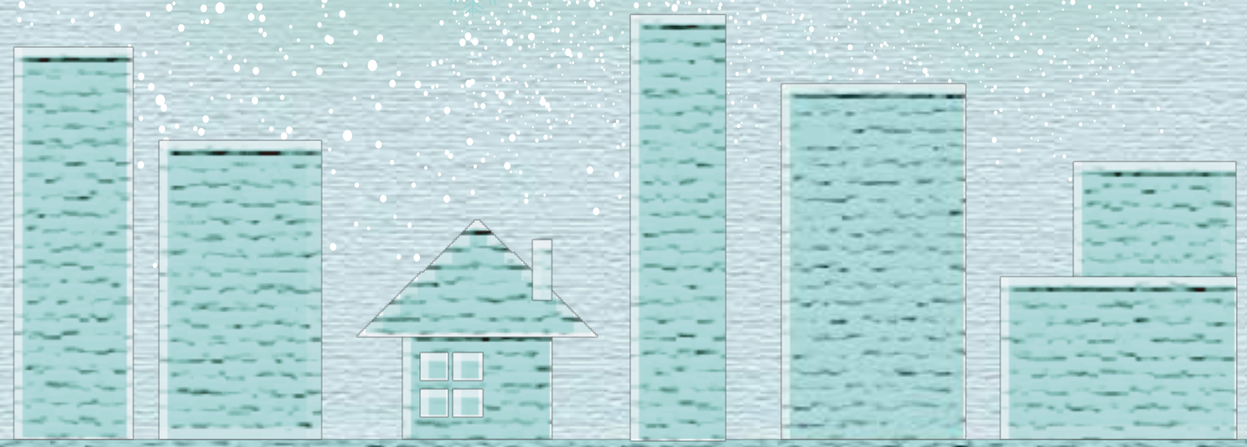
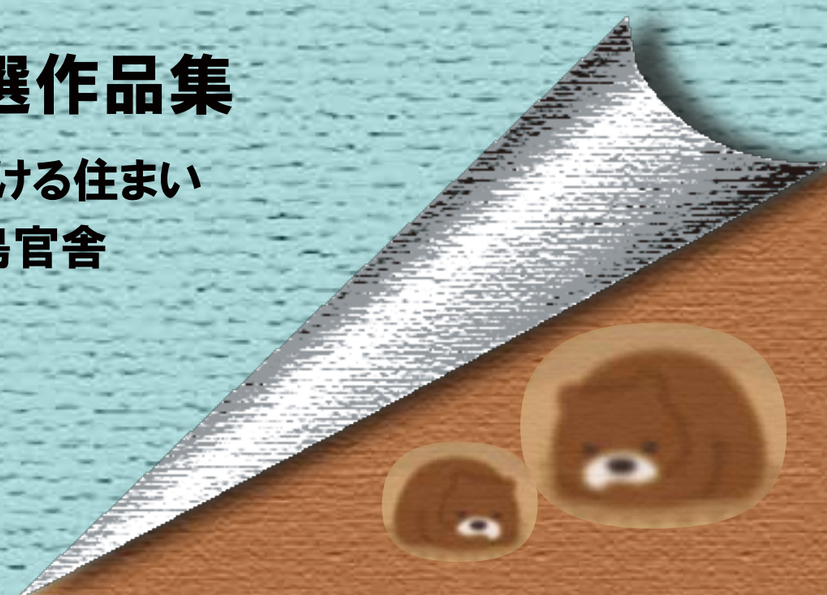
あすなろ夢建築



第 25 回　入選作品集

テーマ：長く生き続ける住まい

（仮称）大阪府福島官舎



主 催

大阪府　公益社団法人 大阪府建築士会　大阪府住宅供給公社

後 援

大阪府教育委員会　一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会

協 賛

一般社団法人 日本建築協会
公益社団法人 日本建築家協会近畿支部
一般財団法人 日本建築総合試験所
一般社団法人 大阪府設備設計事務所協会
公益財団法人 建築技術教育普及センター近畿支部
一般社団法人 大阪府建築士事務所協会
一般財団法人 大阪建築防災センター
一般社団法人 公共建築協会
公益社団法人 日本建築積算協会関西支部

「あすなろ夢建築」大阪府公共建築設計コンクール事務局
大阪府住宅まちづくり部公共建築室計画課
〒559－8555 大阪市住之江区南港北1－14－16 TEL:06－6941－0351(代表)
平成28年3月発行

コンクール概要

このコンクールは、小規模な公共建築物を題材とした実践教育の場を提供することにより、将来の建築技術者の育成を図るとともに、永く府民に愛され親しまれる公共建築づくりを推進することを目的として、大阪府内に所在する建築関連学科のある工業高校や専修学校等に在籍する学生・生徒から提案を募集し、グランプリに選定された作品の提案趣旨を活かして事業化を行うものです。

テーマ
長く生き続ける住まい
ー（仮称）大阪府福島官舎ー

主な設計条件
所在地　　：大阪市福島区吉野四丁目
計画地面積：約 85 ㎡
床面積　　：78 ㎡～ 83 ㎡
構造・規模：鉄骨造　2 階建て（地下なし）

作品受付期間
平成 28 年 1 月 7 日（木）～1 月 13 日（水）

応募状況
応募校数　：14 校
応募作品数：269 点（うち　第 1 部 38 点、第 2 部 231 点）
応募者数　：281 人（うち　第 1 部 44 人、第 2 部 237 人）

第 1 部	第 2 部
大阪市立工芸高等学校	大阪建設専門学校
大阪市立都島工業高等学校	大阪工業技術専門学校
大阪府立今宮工科高等学校	大阪市立デザイン教育研究所
大阪府立西野田工科高等学校	大阪デザイナー専門学校
堺市立堺高等学校	大阪府立北大阪高等職業技術専門校
	大阪府立大学工業高等専門学校
	修成建設専門学校
	中央工学校 OSAKA
	日本理工情報専門学校

応募資格
大阪府内に所在する学校のうち、学校教育法の規定による工業高等学校（工科高等学校）・短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校・高等職業技術専門校の建築関連学科に在籍する学生・生徒であり、個人又は 3 名以下のグループ。

募集区分
第 1 部：工業高等学校（工科高等学校）に在籍する生徒
第 2 部：短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校・高等職業技術専門校に在籍する学生

入選作品と賞
グランプリ 1 点、準グランプリ 1 点、優秀作品賞 2 点、佳作 3 点、奨励賞 3 点の計 10 点を入選作品として選出。
ただし、第 1 部と第 2 部からそれぞれ 2 点以上の入選作品を選出することとした。

表彰式・プレゼンテーション
日時：平成 28 年 3 月 29 日（火）
場所：ハグミュージアム / 大阪ガス ショールーム 2 階 イベントスペース

作品展示
場所及び期間
（1）大阪府咲洲庁舎　1 階ロビー
　　平成 28 年 2 月 26 日（金）～ 3 月 8 日（火）
（2）大阪府庁本館　1 階ロビー
　　平成 28 年 3 月 10 日（木）～ 3 月 18 日（金）
（3）ハグミュージアム / 大阪ガス ショールーム 3 階 エスカレーター側
　　平成 28 年 3 月 22 日（火）～ 3 月 28 日（月）

審査委員
【審査委員長】
福原　和則
（大阪工業大学工学部空間デザイン学科教授）

【審査委員】
岩田　章吾
（武庫川女子大学生活環境学部生活環境学科教授）

下村　泰彦
（大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授）

井上　久実
（一級建築士事務所井上久実設計室代表）

川筋　浩二
（大阪府警察本部総務部参事官）

越智　正一
（大阪府住宅まちづくり部公共建築室長）

総　評　　審査委員長　福原　和則

本年度は、昨年を大幅に上回る多数のご応募をいただきました。今年度の課題は住宅という、より身近な用途であったことに加えて、実現することを前提としている本コンクールの価値をご理解いただけた結果であると手応えを感じています。

工業高校の部、専修学校等の部の其々に、優れた作品がありました。特に入賞作品は室配置や使い勝手という点において優れていることに加えて、空間特性やデザインという点においてもオリジナルな提案を含むレベルの高いものです。特に専修学校等の部に完成度の高いものが目立ちました。

一方で機能性や管理性という点においては少し課題が残りますが、アイデアが斬新で審査員を引き付ける案は、より学生らしい伸びしろのある案です。これらの案は佳作や奨励賞として表彰していますが、もっと冒険をしてもよいと思います。実は審査員は若者らしい挑戦的な案がもっと増えることをひそかに期待しています。

最後になりますが、本紙面を拝借して、入賞された皆様へのお祝いと、このコンクールに作品を提出された皆様、そしてそのご指導に当たられた先生方のご努力に対する御礼を申し上げる次第です。

栗山 匠 作品（グランプリ）
セミパブリック空間とプライベート空間の分離、防犯採光など、基本的な条件を満たしている上、まちなみとの調和、親しみやすいデザインなど周辺環境もよく配慮した、バランスのとれた総合的に優れた作品。

西岡 真樹 作品（優秀作品賞）
動線的に使い易い間取りであり、１階洋室はアプローチとテラスに挟まれたリラックス空間が形成されている。ただ、トイレが１階にしか設置されておらず、２階寝室からの動線距離の長さが気になる。外観は親しみやすいデザインである。

安岡 三四郎 作品（佳作）
明快なゾーニング、プライバシー空間の大バルコニーがよい。断面構成に特徴があるが、大バルコニーの下の空間、リビング上部の空間に無駄な空間がある。リビングの上も勾配天井にするのが良いのではないか。

児島 剛 作品（佳作）
１階部分を分棟とすることで、プライベートとパブリックを明快に分けるとともに、エントランスに明るさ、軽やかさをもたらしている。トイレをパブリックの棟に設けなかった点が惜しい。

中島 智子 作品（奨励賞）
各室がバルコニーやテラスに面した癒し空間として有効である。トイレが上下階にあり、平面的にも使い易いコンパクトな間取りで機能的である。

車塚 千穂 作品（準グランプリ）
建築デザイン的に優れた案。街に開かれた、アプローチ空間への光の取り入れ方は洗練されており、魅力的。２階でのトイレの確保など、実際の運用方法を考慮すると、わずかにグランプリに及ばなかった。

松葉 巧･山本 剛大･山田 好乃 作品（優秀作品賞）
町家をモチーフにした、わかり易く親しみやすいデザインで良くまとまっている。通り庭に沿って洋室を配している点も使いやすい。藤棚、緑の庇等で「癒し」を表現した事も評価できる。

中野 祐亮 作品（佳作）
大きなバルコニーが魅力的で、癒し空間として好感が持てる住宅。ただ、そのことが、ダイニングや廊下など内部空間のゆとりを奪っている点が残念であった。

高梨 和也 作品（奨励賞）
洋室の配置と分割利用等、設計条件を満足しない点もあるが、ユニークなセミパブリック空間を始め、フリースペースや読書スペースなど、さまざまな「仕掛け」を施したアイデアを評価した。

日高 洋介 作品（奨励賞）
3 つの癒し空間をうまく配置し、動線も的確である。道路側の 1 階を大胆にガラス張りとしたが、玄関から階段に向かって歩く為の空間なので問題ないと判断した。外観デザインのシンプルな美しさが評価できる。

グランプリ

グランプリ　栗山　匠
中央工学校 OSAKA1 年
Relax space くつろぎの空間

くつろぎの空間
官舎は数年で住む人が変わっていく事がある。
その為どんな人でも住みやすい空間、くつろぐ事のできる空間を提案する。
この住宅には家具をわざわざ買わなくてもいいようにダイニングテーブルの代わりにキッチンにカウンター、リビングにはソファーなどを置く代わりに 400 ㎜段を設けることでソファーがなくても腰掛ける事ができる。
洋室はセミパブリックな空間として、分割して扱う場合は応接室と書斎とする。書斎はプライベートな空間で、仕事を家ですることも多い居住者が資料などが散らかっていても間仕切ることで隠すことができ、急な来客にも対応する事ができる。

動線計画は 1 階は仕事や眠るといった行為をする空間、2 階でほとんどの家事ができる（生活動線を 2 階にまとめた）空間とした。2 階 1 階ともに南側に大きな開口を設けて自然光を取り入れる。
400 ㎜の段差のところには収納することが出来る引き出しが付いている。子供が居るのなら、そこでおもちゃを広げてあそんでおもちゃは引き出しに片づけるといった空間にもなる。
テラスは応接間から見て楽しむ、イスに座って飲み物を飲みながら読書を楽しむ空間としてゆったりとくつろぐ癒しの空間とする。
周辺環境は周りを家に囲まれて幼稚園などもあり、建物が人の目に良く入ると思うので外壁に木材を使い見た目に暖かさ、やさしさを取り入れた。濃い目の色を塗装しているので色あせなどが気にならず、色が長持ちして感じる様にした。

準グランプリ・優秀作品賞

準グランプリ　車塚　千穂
中央工学校 OSAKA1 年
「癒し空間」としてのアプローチと洋室

アプローチは、落ち着いた空間とするために周囲を壁に囲まれた空間としています。閉鎖的にならないように西側壁面上部には、大きな開口部を設け、下部には、低い開口部を設けている。低い開口部は、西側の塀との間から差す柔らかい光と、玉砂利を敷き詰めた小さな庭が訪れた人を癒す空間となっている。（一部抜粋）

優秀作品賞　西岡　真樹
大阪デザイナー専門学校 1 年
優しい光と風を体感できる家

塀や外壁には自然素材を多く使用し、通りすがる人が目にしたとき、プライバシーを守りながら、気持ちのいい場として感じられる外観づくりをしました。一階洋室は大きな窓によって開放的な空間となり、全開して優しい風に当たりながらお茶を飲むなどとリラックスできる場となります。（一部抜粋）

優秀作品賞
松葉　巧・山本　剛大・山田好乃
堺市立堺高等学校 2 年
地域にとけ込む愛着のある住まい

大阪で人々に長く住まわれている住宅に町屋や長屋があります。福島区は、大阪の中心部に近いにも関わらず、町屋や長屋が多く残っている地域です。そこで、この地域の人たちにとって愛着のある町屋や長屋をモチーフとして先人の知恵を活かした「長く生き続ける住まい」を考えました。

佳作

佳作　安岡　三四郎
修成建設専門学校２年
丘の上の休息、丘の下の団らん、丘は空と共に

丘に見立てたバルコニーを挟んで母屋（ＬＤＫ）と離れ（寝室）が向かい合う。空が見守る穏やかな空間、外の喧騒は届かない。
各室の独立性は現代人の生活スタイルには重要であるため、廊下から各室へ直接出入りできる（ほかの室を経由しないで使える）動線とした。水回り・セミパブリックスペース・プライベートスペースを明確にゾーン分けして動線効率を高める。（一部抜粋）

佳作　中野　祐亮
修成建設専門学校１年
あなたが決める癒し ～大きなバルコニーが生み出す無限の可能性～

私が提案する建築物のメインは前面道路に飛び出んばかりの巨大なバルコニーである。
およそ 22 ㎡もある大きな LDK と連結させ、さらに大きな内外に関わるプライベート空間が完成した。よって、家にいるときの解放感はもちろん、バーベキューやヨガ、青空の空気を浴びながら大の字でお昼寝など、本来なら外出しないとできなかったことがこの家なら「できる」のである。
そして私のコンセプトは「住み手に溶け込む癒しの空間」住む前から決められたものではなく、住み手がその日、その時の気分でしたいことにこの空間は柔軟に対応し、住み手の願いにそっと手を差し伸べる。
あなたはこの家にどんな「癒し」を求めますか？

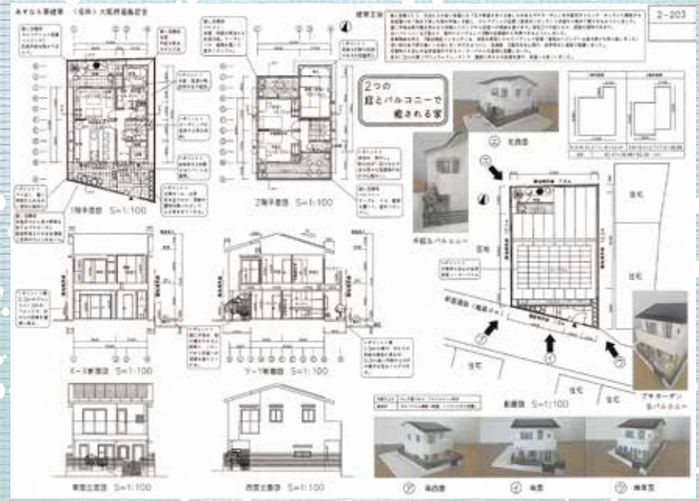
佳作　児島　剛
修成建設専門学校２年
「ハレ」と「ケ」の家

本作品は家が２つあり、用途により使い分けられるようにした。フリースペースは今作の癒し空間となり、テーマの「長く生き続ける住まい」と深く関わっている。
まず、長く生き続ける住まいにするためには、どんな住人でも癒され、使い続けられる癒し空間が必要だと考えた。そして、そのような癒し空間を設けるために、植栽のように好みが分かれたり維持管理面で問題になるものは設けず、自由度の高いフリースペースを設けることにした。
このフリースペースで住人が自分好みの空間を作ってもらい、癒されることを目的とした。

奨励賞

奨励賞　高梨　和也
大阪市立都島工業高等学校３年
中庭から広がる多様な生活スタイル

危機管理者が数年おきに入れ替わる「長く生き続ける住まい」ということで、安全性と十分に考慮し、中庭を中心とした多様な生活スタイルが可能な住宅を設計しました。
この多様な生活スタイルの確立は癒し空間と連動させ考えました。癒し空間としては中心となる中庭やフリースペースの活用、また階段の踊り場を利用した読書スペースなどがあり居住者それぞれに好みや使い道があるでしょう。また、安全性・居住性の面では門からすぐにパブリックスペースをおき、玄関は少し離し建物の真ん中からとし、生活空間とコミュニティー空間（LDK を含む）を分離させました。安全性においても玄関から門を遠ざけることで防犯にもつながります。
（一部抜粋）



奨励賞　中島　智子
修成建設専門学校２年
２つの庭とバルコニーで癒される家

癒し空間として、日当たりのいい南面には「花や野菜を育てる楽しさのあるプチガーデン」を対面式ダイニング・キッチンに隣接させ、北西面には「眺めて楽しむ和の坪庭」を配し、セミパブリック空間（普段はリビング）と浴室から眺めて癒されるようにしました。
建仁寺垣は和の趣を添えると同時にリビングから浴室への視線を遮ります。南北２つの庭により、通風も期待できます。
広いバルコニーを２面とり、屋外リビングとして２階の各部屋から利用できるようにしました。
家事動線を考え、１階玄関近くにキッチンを、来客を想定したセミパブリック空間（普段はリビング）は奥の静かな所に配しました。
深い軒の出でも夏の厳しい日差しをしのげるようにし、各部屋、２面採光を心掛け、自然採光と通風に配慮しました。
災害時に安心の自家発電ができるソーラーパネルを屋根に設置しました。
高さ 1.5mの塀（ブロック＋フェンス）で、適度に外からの目線を遮り、風通しは良くしました。

奨励賞　日高　洋介
大阪建設専門学校２年
Simply and boldly

様々な家族構成に対応でき、且つ、敷地をより広く活用できる住宅
壁を減らすことにより動線を短くし且つ、広い LDK は家族構成により形を変えることができる。
廻り庭を設置。外部と内部のレベルと同一にすることにより空間を連続して使用することが出来る。
接客スペースを多く設けることでケースに合わせて使用ができる。